

## 報 告

## PPC2012 西日本国際福祉機器展に参加して

総合せき損センター 小林 博光

## 1. 地方の福祉機器展

毎年、9月末頃に開催される、国際福祉機器展(H.C.R.)は、国内最大の福祉機器展示会であるが、このほかにも、大阪でバリアフリー、愛知でウェルフェアなど、地方都市でも同様の福祉機器展が開催されている。そんななか、福岡では「西日本国際福祉機器展」が開催されている。

今年で14回目の開催となり、例年「PPC20xx」のように表記されるが、PPCとは「People-to-People Communication」の頭文字からとったものとのこと。地方ならではの暖かみを感じる。

出展社数は、併催のトータルリビングショーを含め、192社。来場者数は同様の計算で約2万5千人とのことであった。ほかの三大福祉機器展と比較しても圧倒的に少ない数ではあるが、数字で勝負するようなご時世ではないと思うし、数字で表現できない楽しさも味わえた。

そんな西日本国際福祉機器展に、2012年11月10～11日の二日間参加したので報告する。

## 2. 見ごたえ

西日本トータルリビングショーとの併催なので、住宅関連設備などとあわせて見ることができる。家庭用エレベーターや自動ドアなど福祉的要素のあるモノから、環境や健康をうたつた建築部材まで、福祉の範疇にこだわることなく広範囲な情報が得られた。

たとえば家庭用エレベーターのブースへ、別のブースから借りてきたリクライニング機能付き介助用車いすを持込み、壁との間隙の長さや操作スイッチのアクセス性など、実際の使用状況を確認することができた。

---

総合せき損センター

〒820-8508 福岡県飯塚市伊岐須 550-4

もう一つ気に入ったのが、住宅内の壁に塗りつける漆喰等の材料を取り扱うブースで見た、「鉄粉入り塗料」と「黒板化塗料」である。鉄粉入りは壁面に磁石をつけることができ、黒板化はその通り、壁が黒板になる。自宅における様々なリハビリ的動作にも使えそうであると感じた。身体的な障害だけでなく、感覚障害や発達障害など多域に応用できそうだ。

来場者数が少ないとということは、裏を返すと、出展者スタッフとじっくりゆっくり話し合ったり、順番待ちを気にしたりすることなく、満足するまで展示品を試すことができるというメリットもある。前述の家庭用エレベーターのように、他のブースから何かを借りて別のブースへ行ってみることは、ほかの大規模な福祉機器展では実現できないであろう。

このように、地方の小さな展示会でも、見方によってはそれなりに情報が得られたり、そこでしか得られない機会があつたりするものである。

## 3. リハ工学ディスカッション

様々なセミナーも会期中に行われたが、当協会では「リハ工学ディスカッション～道具で広がる世界～」が開催された。講師／司会は僭越ながら筆者が担当した。内容は、協会誌『リハビリテーション・エンジニアリング』のVol.27 No.2「道具で広がる世界」の朗読と意見交換会である。

協会員でない方も参加できるよう、PCプロジェクタでスクリーンに投影しながら朗読し、会場から福祉機器の適合の現場で作る道具について、有意義な意見交換ができた。

リハ工学カンファレンスのような規模の大きいイベントではなく、このような地方会的なイベントは、福祉機器展などの他のイベントに併せて開催すると、参加しやすくなったり、より広い情報を得ることが出来るだろうと思っている。

来年度にも期待したい。